

ドイツの新しい家族観調査 (2012) -低出生力の文化的背景

Family Leitbild(er) Survey (FLB 2012) : Cultural Approach on Family ,Demography
and Policy Making

原 俊彦(札幌市立大学) Toshihiko HARA (Sapporo City University)

【新人口転換科研 第3回研究会】
日時 : 2015 年 10月9日(金) 14:00~16:00
場所 : 国立社会保障・人口問題研究所 第4会議室

調査の背景(ドイツの低出生力)

- 西独地域: 1970年の
2.01⇒置換水準以下、
1975年以降、1.4前後で
推移。
- 東独地域: 1994年
0.83⇒回復⇒2013年現
在1.45と逆転。
- 2007年に家族政策を強
化⇒効果は限定的であ
り、理由の解明が求めら
れている。



ドイツの新しい家族観調査 (2012)

- プロジェクト名: 家族に関するイメージ (Familienbezogene Leitbilder)
 - 連邦人口研究所 (BiB: Bundesinstituts für Bevölkerungsforschung) ⇒ TNSインフテスト社会調査 (株) (Infratest Sozialforschung GmbH) が実施。
 - 目的: 出生行動と家族生活に関わる現象に対する、規範的・文化的家族観 (LBR) の影響を解明するためのデータを収集。
 - 実施期間: 2012年8月27日から11月15日まで
 - 対象地域: ドイツ連邦共和国全域 (ベルリンを除く)、地域人口に比例。
-

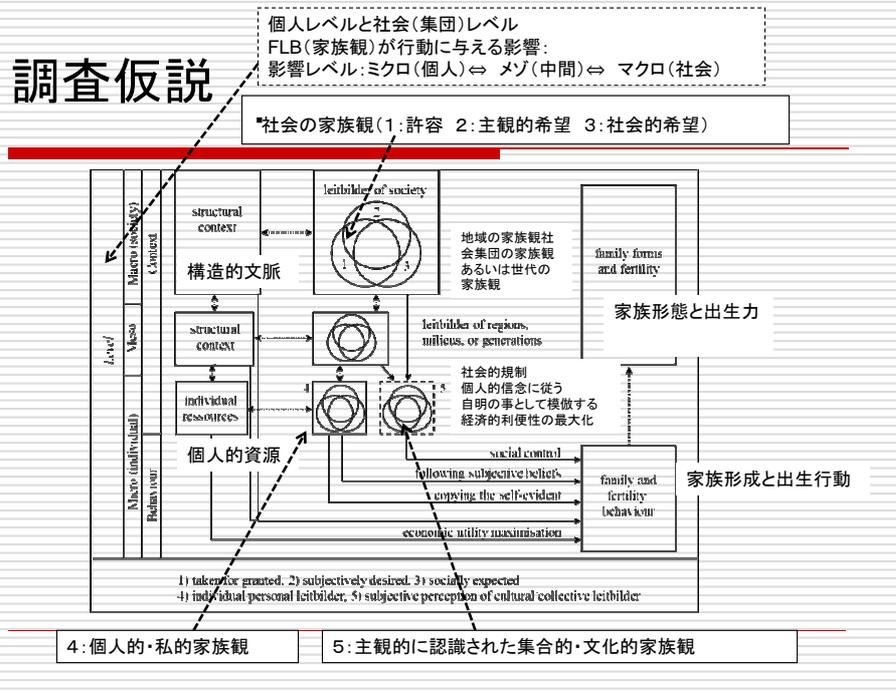
調査方法

- 方法: CATI (Computer Assisted Telephone Interviews)
 - 標本抽出法: ITMS (Infratest Telefon Master Sample)
 - 調査データ集計ソフト: Odin von NIPO
 - 調査対象者数: 5000人 (固定電話 約4500人、携帯電話約500人)。50名でプレテスト。有効回答率: 固定電話 41.1%、携帯電話 56.5%
 - 年齢: 20歳から39歳 (1972年から1992年生まれ)。
 - インタビュー: 1人平均32分 (計画30分)。
 - インタビュー人: 157名 (事前トレーニング)
 - 費用: 25万 Euro (1ユーロ = 135円、約3375万円。対面調査の3分の1程度)
-

家族観 (FLB: Familienleitbilder) とは

- “Leitbild (ライトビルト)” (複数: “Leitbilder (ライトビルダー)”)= “guiding image” Birgit Pfau-Effinger (2004: 382)
- “leiten (ライテン)”= 導くこと (to lead or to guide)
- “Bild (ビルト)” = 画像・イメージ (picture or image)
- 一定の文脈において、物事がいかにあるべきか(どのように機能し、どのように見えるべきか)についての考えあるいはコンセプトであり、習うべき役割モデルあるいは追い求めるべき理念やビジョン。Detlev Lück, Sabine Diabaté, Kerstin Ruckdeschel (2015: 3)
- ✓ 例: 企業などが掲げる「企業理念・使命」。企業目標やその企業行動の理想を表出する “Unternehmensleitbild”

調査仮説



質問の形式

*以下TNS Infratest Sozialforschung GmbH (2013) の報告書より抜粋

導入文:

- 色々な話題について、あなたが個人的にどう思っているかお聞きします。また、そのテーマについて世間 (die Allgemeinheit) はどう思っているか、あなたがメディアや他の人たちとの接触から普段、耳にする、ドイツで主流の考えは何かについて、あなたの見方をお聞きします。

Themenblock Partnerschaft

A1a – A1e

Zuerst zum Thema „Partnerschaft“.
Unabhängig davon, ob Sie selbst in einer Beziehung leben, möchte ich mit Ihnen über Ihre Einstellungen zum Thema Partnerschaft sprechen. Dazu lese ich Ihnen jetzt ein paar Aussagen vor.

****INT:** Skala bei den ersten beiden Items vorlesen, dann nur noch „bei Bedarf“

Stimmen Sie persönlich...	1 voll und ganz zu	2 eher zu	3 eher nicht zu	4 Überhaupt nicht zu	-3 **w.n.	-2 **k.a. verw.	-4 **k.a. nicht verst.
A1a) Menschen können nur in einer festen und stabilen Partnerschaft glücklich sein.	<input type="checkbox"/>						
A1b) Wenn man als Paar dauerhaft zusammenlebt, sollte man heiraten.	<input type="checkbox"/>						
A1c) Partnerschaften können nur zeitlich begrenzt funktionieren.	<input type="checkbox"/>						
A1d) Die Ziele des Paares sind wichtiger als die des Einzelnen.	<input type="checkbox"/>						
A1e) Es ist schlecht, wenn der Mann eine niedrigere Bildung hat als die Frau.	<input type="checkbox"/>						

[*** PROG: Zeitmarker 2]

例：パートナー関係 A1a-A1e

まず、テーマ「パートナー関係」について。ご自分がだれかと生活しているかどうかとは関係なく、「パートナー関係というテーマ」について、あなたの意見をお聞きます。今から、このテーマについて幾つかの意見を読み上げます。

**インタビューは、最初の2項目を読み上げ、後は、必要に応じて。

あなたは、個人的に賛成ですか？

1. 全面的に賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば賛成しない 4. 全く賛成しない。-3. わからない。-2. 回答なし(拒否) -4. 回答なし(質問を理解できず)。

A1a) 人は固く結ばれた安定した人間関係の元で幸せになれる。

A1b) パートナーとして継続的に暮らすなら、結婚すべきである。

A1c) パートナー関係は一時的にしか続かないものである。

A1d) パートナーとの共通する目標は、それぞれのものより重要である。

A1e) 男が女より学歴が低いと具合が悪い。

A2a – A2c

Nachdem ich Sie nach Ihrer persönlichen Meinung gefragt habe, interessiert mich jetzt, was aus Ihrer Sicht die **Meinung der Allgemeinheit** ist. Es geht also um Ihre Vorstellung davon, was die vorherrschende Meinung ist.

**INT: Skala bei den ersten beiden Items vorlesen, dann nur noch „bei Bedarf“

Die Allgemeinheit stimmt...	1 voll und ganz zu	2 eher zu	3 eher nicht zu	4 Überhaupt nicht zu	-3 **w.n.	-2 **k.a. verw.	-4 **k.a. nicht verst.
A2a) Wenn man als Paar dauerhaft zusammenlebt, sollte man heiraten.	<input type="checkbox"/>						
A2b) Partnerschaften können nur zeitlich begrenzt funktionieren.	<input type="checkbox"/>						
A2c) Es ist schlecht, wenn der Mann eine niedrigere Bildung hat als die Frau.	<input type="checkbox"/>						

[*** PROG: Zeitmarker 3]

例：パートナー関係 A2a – A2c

あなたの個人的な意見をお聞きしましたが、次に、一般的な意見(あなたがこれが主流だと思う意見)について、あなたの見方をお答え下さい。

** インタビューアは、最初の2項目を読み上げ、後は、必要に応じて。

あなたは、個人的に賛成ですか？

全面的に賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば賛成しない 4. 全く賛成しない。-3. B1わからない。-2. 回答なし(拒否)-4. 回答なし(質問を理解できず)。

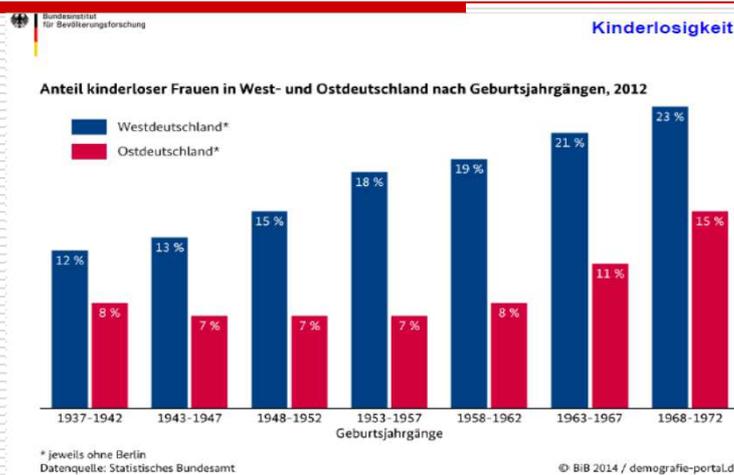
A2a) パートナーとして継続的に暮らすなら、結婚すべきである。

A2b) パートナー関係は一時的にしか続かないものである。

A2c) 男が女より学歴が低いと具合が悪い。

【調査結果1】 増加する無子割合の文化的背景

* 以下、Jürgen Dorbritz (2014) より抜粋



【調査結果1】 無子割合の文化的背景(個人)

These 1:

Kinderlosigkeit ist sozial akzeptiert, Sanktionen finden keine Mehrheit

Aussage: Heutzutage ist es etwas ganz normales, keine Kinder zu haben (Antwort aus der persönlichen Sicht)	Stimme voll und ganz zu	24,7 %	59,7
	Stimme eher zu	35,0 %	
	Stimme eher nicht zu	27,1 %	
	Stimme überhaupt nicht zu	13,2 %	
Aussage: Kinderlose sollten höher Steuern und Abgaben leisten als Eltern (Antwort aus der persönlichen Sicht)	Stimme voll und ganz zu	17,9 %	57,5
	Stimme eher zu	24,6 %	
	Stimme eher nicht zu	32,2 %	
	Stimme überhaupt nicht zu	25,3 %	
Aussage: Kinderlose verhalten sich Egoistisch, weil sie ein bequemes Leben führen wollen (Antwort aus der persönlichen Sicht)	Stimme voll und ganz zu	11,1 %	73,7
	Stimme eher zu	16,2 %	
	Stimme eher nicht zu	41,5 %	
	Stimme überhaupt nicht zu	32,2 %	

【調査結果1】 無子割合の文化的背景(個人)

命題1: 子どもを持たないことは社会的に受容されており、懲罰的課税などを求める考えは多数派ではない。

★今日では、子どもを持たないことは、全く普通のことである。⇒全面的に賛成 24.7% どちらかといえば賛成 35.9% (賛成合計 59.7%)どちらかといえば賛成しない 27.1% 全く賛成しない 13.2%

★子どもを持たない人は、持つ人より多く税金や負担を負うべきだ。⇒全面的に賛成 17.9% どちらかといえば賛成 24.6% どちらかといえば賛成しない 32.2% 全く賛成しない 25.3% (反対合計 57.9%)

★子どもを持たない人は、自分だけの生活を楽しんでいるエゴイストだ。⇒全面的に賛成 11.9% どちらかといえば賛成 16.2% どちらかといえば賛成しない 41.5% 全く賛成しない 32.7% (反対合計 73.7%)

【調査結果1】 無子割合の文化的背景(社会)

These 2:

Kinderlosigkeit ist ein Lebensstil mit hoher Attraktivität.

Gründe für Kinderlosigkeit

Aussage: Weil Kinder und Beruf so schlecht zu vereinbaren sind (Antwort aus der Sicht der Allgemeinheit)	Stimme voll und ganz zu	24,3 %	} 78,5
	Stimme eher zu	54,2 %	
	Stimme eher nicht zu	19,6 %	
	Stimme überhaupt nicht zu	1,9 %	
Aussage: Weil man sich ohne Kinder viel mehr leisten kann (Antwort aus der Sicht der Allgemeinheit)	Stimme voll und ganz zu	31,7 %	} 80,8
	Stimme eher zu	49,1 %	
	Stimme eher nicht zu	17,7 %	
	Stimme überhaupt nicht zu	1,5 %	
Aussage: Weil Kinderlose so leben können wie es ihnen gefällt (Antwort aus der Sicht der Allgemeinheit)	Stimme voll und ganz zu	24,3 %	} 78,5
	Stimme eher zu	54,2 %	
	Stimme eher nicht zu	19,6 %	
	Stimme überhaupt nicht zu	1,9 %	

【調査結果1】 無子割合の文化的背景(社会)

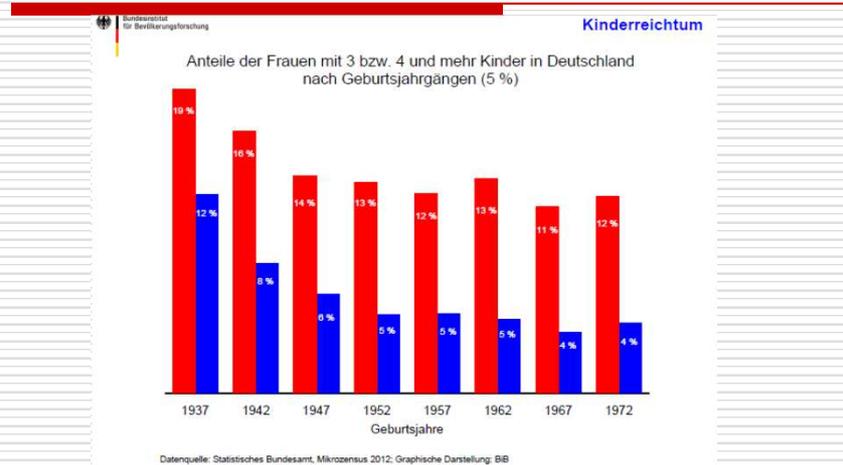
命題2: 子どもを持たないことが、より魅力的なライフスタイルとなっている。

★というも、子どもと仕事の両立は困難だから⇒全面的に賛成 24.3% どちらかといえば賛成 53.2% (賛成合計 78.5%) どちらかといえば賛成しない 19.6% 全く賛成しない 1.9%

★というも、子どもがいなければ、もっと多くのことができるから⇒全面的に賛成 31.7% どちらかといえば賛成 49.1%(賛成合計 80.8%)どちらかといえば賛成しない 17.7% 全く賛成しない 1.5%

★というも、子どもを持たない人は、自分の気に入った生活ができるから⇒全面的に賛成 24.3% どちらかといえば賛成 54.2%(賛成合計 78.5%) どちらかといえば賛成しない 19.6% 全く賛成しない1.9%

【調査結果2】 低下する多子家族割合



【調査結果2】 多子家族減少の文化的背景(社会)

These 1:

Es gibt so wenig kinderreiche Familien, weil ihnen ein Negativimage anhängt.

Aussage: Kinderreiche gelten als asozial (Antwort aus der Sicht der Allgemeinheit)	Stimme voll und ganz zu	Stimme eher zu	Stimme eher nicht zu	Stimme überhaupt nicht zu	
	22,7 %	53,0 %	20,0 %	4,3 %	75,7

These 2:

Das Leitbild der verantworteten Elternschaft behindert Entscheidungen für die Geburt dritter oder vierter Kinder.

Aussage: Nur Familien, die genügend Geld haben, sollten sich viele Kinder leisten (Antwort aus der Sicht der Allgemeinheit)	Stimme voll und ganz zu	Stimme eher zu	Stimme eher nicht zu	Stimme überhaupt nicht zu	
	35,2 %	46,5 %	15,2 %	3,1 %	81,7

Aussage: Wer viele Kinder hat, kann sich um das einzelne Kind nicht mehr richtig kümmern (Antwort aus der Sicht der Allgemeinheit)	Stimme voll und ganz zu	Stimme eher zu	Stimme eher nicht zu	Stimme überhaupt nicht zu	
	18,1 %	56,3 %	22,5 %	3,1 %	74,4

【調査結果2】 多子家族減少の文化的背景(社会)

命題1: 子沢山の人がこんなにも少なくなったのは、悪いイメージのせいだ。

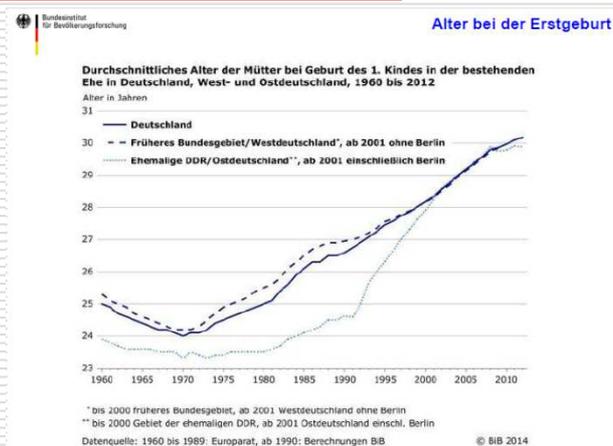
★子沢山の人は社会性がない⇒全面的に賛成 22.7% どちらかといえば賛成 53.0% (賛成合計 75.7%) どちらかといえば賛成しない 20.0% 全く賛成しない 4.3%

命題2: 親となることの責任の重さが3人あるいは沢山の子どもを産む妨げになる。

★十分なお金がある人だけが沢山の子どもを持つべきだ。⇒全面的に賛成 35.2% どちらかといえば賛成 46.5% (賛成合計 81.7%) どちらかといえば賛成しない 15.2% 全く賛成しない 3.1%

★子沢山の人は一人一人の子どもの面倒をちゃんとみることができない。を持たない人は、自分だけの生活を楽しんでいるエゴイストだ。⇒全面的に賛成 18.1% どちらかといえば賛成 56.3% (賛成合計 74.4%) どちらかといえば賛成しない 22.5% 全く賛成しない 3.1%

【調査結果3】 上昇する第1子出産年齢



【調査結果3】 第1子晩産化の文化的背景(個人)


Alter bei der Erstgeburt

These 1:
Das Geburtenniveau ist niedrig, weil die Familiengründung so spät beginnt und zeitlich begrenzt ist.

Ideales Alter bei der Erstgeburt:

Frauen	26,95 Jahre
Männer	28,90 Jahre
Frauen, Bildung, niedrig	26,29 Jahre
hoch	27,72 Jahre
Frauen, Ost	26,28 Jahre
West	27,12 Jahre

These 2:
Frühe und späte Geburt sind sozial nicht akzeptiert.

Ideales Alter nach Altersgruppen:

Altersgruppen	Frauen	Männer
unter 20	0,5	0,2
20-24	14,8	6,7
25-29	58,9	45,4
30-34	21,3	39,1
35 und älter	1,7	8,6

【調査結果3】 第1子晩産化の文化的背景(個人)

命題1:ドイツの出生水準がこんなに低いのは、家族形成に時期が遅く、その時間が限られているからだ。

★理想の第1子の出生年齢

女子 25.95歳 男子 28.90歳

女子 低学歴 26.29歳 高学歴 26.72歳

女子 東ドイツ地域 26.28歳 西ドイツ地域 27.12歳

命題2:早過ぎる出産や遅過ぎる出産は社会的に認めれていない。

★理想の年齢(年齢階層別の分布 %)

	女子	男子
20歳未満	0.5	0.2
20-24歳	14.8	6.7
25-29歳	58.9	45.4
30-34歳	21.3	39.1
35-39歳	1.7	8.6

まとめ その1

- **無子(Kinderlosigkeit)** ドイツではすでに出生行動型の1つとして定着し、社会的に認知されている。
 - 無子(子どもを持たない)の家族像(Leitbilder)はあるのか？
 - 無子は、少数グループの間で文化として確立している。
 - -約10%は子どもを持たないし、子どもを望まない。2つ家族像が確認できる。
 - a)リスク回避型無子(将来への心配、責任を負うことへの不安、日常生活に対する過剰な負荷)
 - b)自立強調型無子(自己決定を強調、仕事・余暇における自己実現、キャリア志向)
-

まとめ その2

- **理想の第1子出産年齢(Ideales Erstgebäralter)**
 - -実際の平均出生年齢より低い
 - -家族政策的なチャンス、早期の家族形成を可能にする
 - -第1子をより早く持つ人がより多くの子どもを持つ
 - **多子家族(Kinderreichtum)**
 - -否定的イメージ(非社会的)、議論:いかにして、いつ、これは発生したのか？
 - -多子家族に対する財政的な差別。自分で育てられる資力のある者だけが多くの子どもを持つことを許される。
 - -個々の子どもを十分に面倒みるだけの時間がない。
-

まとめ その3

□ 家族像(Leitbilder):

- -多子家族に対し距離感
- -男女両性選好

□ 責任ある両親という規範の受容

- -過剰要求に対する不安⇒子どもを持つことへの妨げ
 - -十分なことを子どもにできないという不安⇒多子家族を持つことへの妨げ
-

家族像(Leitbilder):

- -多子家族に対し距離感
 - -男女両性選好
 - 責任ある両親という規範の受容
 - -過剰要求に対する不安⇒子どもを持つことへの妨げ
 - -十分なことを子どもにできないという不安⇒多子家族を持つことへの妨げ
-

調査結果の意義. Detlev Lück, Sabine Diabaté, Kerstin Ruckdeschel (2015) pp. 9-10

1. 家族観(FLB)の存在と調査手法の適切性を確認。家族観(FLB)。いくつかの知見により、なぜ、ヨーロッパの家族生活の変化が期待より遅延(あるいは全く進んでいない)している理由を理解する上で、家族観(FLB)が鍵を握るというテーゼが支持された。
2. 個人的家族観(personal LB)に従えば、20-39歳のドイツ人は、「父親は子育てに積極的に参加する責任があり、そのために就業を減らす」べきだと考えている。その一方、文化的家族観(cultural FLB)として「普通の父親は家族全員のために十分な所得をもたらすことができ、本来、主夫には向いていない」と認識している。基本的によりジェンダー平等に向う傾向が見られるが、個人的家族観(personal LB)と文化的家族観(cultural LB)の間に注目すべき対立があることが確認された。また、この文化的家族観(cultural LB)は、40歳より上の年代(より伝統的な家族像・父親像を持つ)に、また既存の制度(税制など)が部分的に想定する、一家の稼ぎ手としての父親像に対応して形作られたものである。このような二律背反的な家族観(FLB)の共存がコンフリクトや方向性の欠如に繋がっていると推定される。

調査結果の意義 (続き)

3. 相当数の男性、特に子どものいない男性がこの「子育てへの積極的参加と家族所得の確保」という二律背反的な家族観(FLB)への「父親の責任」を認めている。二律背反的な家族観(FLB)おのことは、方向性の欠如が実現能力を超えた期待に繋がっていることを示唆している。母親についても同様の傾向が確認できる。20歳から39歳のドイツ人の多数派は母親は就業し自立すべきであり、同時に午後は、家で子どもともに過ごすべきだと感じている。同様の結果は文化的家族観(cultural LB)にも見られるが、ここでは家庭に留まる母親という、より伝統的な家族観が強調されている。つまり、母親も父親同様に、個人的家族観と文化的家族観の衝突を体験している。ただし、母親は、自身の就業キャリアと子育てを両立することが期待されている分、より過大な重圧となる。

調査結果の意義 (続き)

4. 子どものいるカップルのみの就業関係に注目すると、専業主婦家庭(男性稼得者a male breadwinnerと非就業の主婦female caretaker)という古い家族像を持つ者は全体の10%以下と少数派に過ぎず、この種の家族像を共有する者の割合は、実際に男性稼得者a male breadwinnerであるケースで有意に高い。逆にこの種の家族像を拒否する者の割合は共稼ぎタイプで有意に高い。このことは、日常行動に対する家族像の効果や、自身の家族像に関わる日常体験の影響、あるいはその相互作用を反映しているものと思われる。

5. 専業主婦家庭像(男性稼得者a male breadwinnerと非就業の主婦female caretaker)は、母親が子どもの面倒を私的にみるべきであり、公的ケアは拒否する¹と考えとリンクしている。より一般的な支持を集める(20-39歳のドイツ人の40%)、両親がともに子育てを担うべきだ²という家族像は、どのように子どもを育てべきかについて質的にかなり要求水準の高い考え(両親は自分自身より、子どものニーズを優先すべきだ。失敗がないように正しい育て方についての情報をよく知っているべきだ)とリンクしている。20-39歳のドイツ人の約90%が「子どもは勝手に育つので心配する必要はない」という表現に不同意であり、40%は「1歳から3歳までの子どもをデイケアセンターに預けるのは有害である」と思っている。

調査結果の意義 (続き)

6. いくつかの家族像は子どもを持つこととの相関関係を示している。子育てがどうあるべきかについて、「親は子育てにおいて多くの間違いを犯す可能性がある³ので、十分な情報を得る必要がある」と考える者は、親になる確率が50%も低い。この事はクロスセクションでの知見によれば、親の責任に対する高い要求イメージが若者が子どもを持つことを心理的に妨げているとも解釈できる。

日本での展開可能性

- 連邦人口研究所 (BiB: Bundesinstituts für Bevölkerungsforschung) より日本でも同様の調査を実施しないかとの提案があり、現在、検討中。
- フランス (INED) が2015年実施。結果待ち。ハンガリーが実施を検討中とのこと。
- 標本数から考え、公的機関 (国立社会保障・人口問題研究所、または内閣府の社会経済研究所など) での実施が望ましい。
- 同様の電話インタビュー調査を行うのは、日本では難しい⇒実施委託可能な調査会社の検討、あるいは独自方式？
- 他の類似調査との比較・共通性と特異性について要検討。

参考文献・謝辞

参考文献リスト

1. TNS Infratest Sozialforschung GmbH, Familienbezogene Leitbilder Methodenbericht ⇒最初に来た調査方法の解説 MB_Familienbezogene_Leitbilder_20130301_final-1.pdf
2. Jürgen Dorbritz, Familiendemografische Trends und soziologische Befunde- Überlegungen zum niedrigen Geburtenniveau in Deutschland. 9. Demographie-Kongress Best Age, Forum VIII: Familie im Kontext von Leitbildern, Politik und Arbeit 27. und 28 August 2014 ⇒ネットで見つけた口頭発表Dorbritz.pdf
3. Sabine Diabaté, Federal Institute for Population Research (Bundesinstitut für Bevölkerungsforschung, BiB) Wiesbaden, Germany, 1, 2 or more children? Cultural Approach on Family, Demography and Policy Making Status quo and Outlook to the Future, Monday, June 1st, 2015, 10:00 - 16:00 International Forum: 'Thirty Years Vienna NGO Committee on the Family -Outlook to the Future.' United Nations Vienna International Centre *Dr. Dorbritzから到着したザビーネ・デアバーテのPPP (英語)
4. Detlev Lütk, Sabine Diabaté, Kerstin Ruckdeschel (2015) Cultural conceptions of family as retardants of change in family lives. The "leitbild" approach. (英語) LUECK-Diabaté-Ruckdeschel_The leitbild approach_Vilnius-Volume_2015-06-16_final03 *Dr. Dorbritzから到着した草稿？
5. CHRISTINE HENRY-HUTHMACHER (HRSG.), NORBERT F. SCHNEIDER, SABINE DIABATÉ, DETLEV LÜCK FAMILIENLEITBILDER IN DEUTSCHLAND: IHRE WIRKUNG AUF FAMILIENGRÜNDUNG UND FAMILIENENTWICKLUNG, Konrad-Adenauer-Stiftung e.V. 2014⇒kas_38060-544-1-30 *コンラッド・アドナウアー基金の報告書
6. Norbert F. Schneider, Sabine Diabaté, Kerstin Ruckdeschel (Hrsg.) Familienleitbilder in Deutschland Kulturelle Vorstellungen zu Partnerschaft, Elternschaft und Familienleben. Verlag Barbara Budrich. Opladen · Berlin · Toronto 2015, Bundesinstitut für Bevölkerungsforschung (BiB) Band 48⇒Band48_end_13032015.pdf *Dr. Dorbritzから到着した本のPDF版

*本研究は「人口転換の現代的解析に基づく新たな人口潮流とライフコース変動に関する総合的研究」(基盤研究(B)) (科学研究費補助金 平成26~28年度:研究代表 金子隆一 国立社会保障・人口問題研究所 副所長)によるものである。

連絡先：原 俊彦（はら としひこ）
札幌市立大学 デザイン学部（教授）
〒005-0864 札幌市南区芸術の森1丁目 Tel: (直) 011-592-5860 (代) 011-592-2300
FAX : 011-592-2374E-mail : t.hara@scu.ac.jp <http://faculty1.scu.ac.jp/hara/>
